

平成28年度 生活・自立支援キャンプ事業

子ども生き生き体験学習②

- 1 趣 旨 母子生活支援施設との連携を深め、様々な体験活動をとおして、子供たちの豊かな情操を養い、自立を支援する。
- 2 期 日 平成28年7月26日（火）～28日（木） 2泊3日
- 3 対象者 母子生活支援施設「千草寮」に入所している子供
- 4 募集定員 無し
- 5 参加者 12人（小学生10人 千草寮指導者2人）
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員



7 日程と主な活動

【低学年】（1～3年生）

《日帰り》	9:00	9:55	10:40	11:10	12:00	13:00	16:00	18:00	18:30	20:00
7月26日（火）	出発 タクシー	垂水フェリー 乗船体験 垂水港から タクシー移動	入所 オリエンテーション アイスブレイク	屋食 レストラン	《体験》 スポーツ クライミング （荒天：プラ板）	《生活》 夕食作り 夕食 後片付け	退所 自然の家からタクシー移動 垂水フェリー乗船体験 鴨池港からタクシー移動			寮着

【高学年】（4～6年生）

《1日目》	9:00	9:55	10:40	11:10	12:00	13:00	16:00	20:00	21:00
7月26日（火）	出発 タクシー	垂水フェリー 乗船体験 垂水港から タクシー移動	入所 オリエンテーション アイスブレイク	屋食 レストラン	《体験》 スポーツ クライミング （荒天：プラ板）	《生活》 夕食作り 夕食 後片付け シャワー	《体験》 星空観測		まとめ 就寝

《2日目》	6:30	7:00	9:00	12:30	13:30	16:30	20:00	21:00
7月27日（水）	起床	《生活》 つどい 朝食 レストラン	《体験》 カヌー体験 （荒天：サンドスケッチ）	屋食 弁当	《体験》 マウンテンバイク インラインスケート （荒天：ニュースポーツ）	《生活》 夕食作り 夕食 後片付け シャワー	《体験》 肝だめし	まとめ 就寝

《3日目》	6:30	7:00	9:00	9:30	12:00	12:40	13:10	13:30	15:00
7月28日（木）	起床	《生活》 つどい 朝食 レストラン	垂水漁協へ タクシー移動	《体験》 カンパチ養殖場 漁業体験	屋食 漁協食堂	感想 アンケート ふりかえり 別れのつどい	垂水漁協からタクシー移動 垂水フェリー乗船体験 鴨池港からタクシー移動		寮着

8 事業運営について

- (1) 鹿児島市の母子生活支援施設「千草寮」と連携して、施設で生活する子供を対象に体験活動を行う中で、子供たちのあいさつや返事などの基本的な生活習慣の確立や自立心の育成に貢献できるよう心がけた。
- (2) 食事作りにおいては小学生低学年も役割分担をして、活動に参加できるようにした。
- (3) スポーツクライミングやカヌー体験など、未経験の活動を行う中で、子供たち自身が達成感や満足感を味わうことができるよう工夫した。

9 事業の実際

- (1) スポーツクライミングでは、初めての体験であったが、何度も挑戦する姿が見られ、意欲的に活動に参加できた。頂上に到達した子供は満足した表情で自信が付いたようだった。
- (2) 野外炊飯（カレー作り）では、2・3年生も参加し、分担された役割を責任持って取り組むことができた。また、後片付けまで、班のみんなで協力してきれい片付けすることができた。
- (3) カヌー体験では、全員が初めての体験であったが、漕ぎ方がとても上手で2人の息を合わせ、スムーズに進むことができた。また、海の状態もよく、沖合まで往復する程、充実し楽しくカヌー体験を行うことができた。活動後は、「スイスイ進んで楽しかった。」とうれしそうに話していた。
- (4) マウンテンバイクでは、普段乗り慣れていない子供もいたが、職員が前後に付いて、キャンプ場まで安全にサイクリングを行うことができた。
- (5) 星空観察では、望遠鏡を利用して、土星を見ることができた。土星の輪が見えたときは、「すごい。輪が見えた。」と、とても感動していた。
- (6) カンパチ養殖場漁業体験では、まず、漁船に乗り込みカンパチのえさやり体験を行った。次に、早朝でつかまえたばかりの新鮮なカンパチのさばく体験を行い、自分たちでさばいたカンパチを美味しくいただくことができた。

10 参加者の感想

- スポーツクライミングでは、登れないところもあったけど、頂上まで登れたのでとても楽しかったです。（中学生・女子）
- 大自然の中で様々な体験をしている時は、素直になれたり感動したりしていました。非日常の体験の大切さを改めて実感させていただきました。ありがとうございました。（千草寮指導者）

11 成 果

- 今回初めての参加であったが、施設では見られないような表情だったり活躍だったり新たな発見が見られたようだ。また、子供たちの生活習慣の確率や自立心の育成のために体験活動の必要性を引き続き呼びかけていく。

